

WB A世界スーパーフェザー級スーパー王者

内山高志さん

うち

やま

たか

し



手の届く目標を立てて、一つずつクリアしていくことが大事だと思う。

春日部は運動するのにいい環境が整っている

平成27年12月31日のWB A世界スーパーフェザー級タイトルマッチで内山高志選手は見事11回目の防衛に成功した。日本歴代単独2位の記録だ。

春日部出身の内山選手は、子どもの頃からスポーツに親しんだ。



「今、目指しているのは、ボクシングの聖地、アメリカ・ラスベガスで試合をして結果を残すことです」と内山選手。

「環境が良く、運動するのにとてもいい環境ですね」

内牧小学校時代は、地域の少年野球チームに入る傍ら、学校では体操部に所属。陸上選手に選ばれたこともある。春日部中学校に入ると今度はサッカーに夢中になった。この頃、テレビでボクシングの試合を見たのをきっかけに、花咲徳栄高校への進学を決め、ボクシングを始めた。

「ボクシングが長続きしているのは、やっぱり面白くて好きだからです」

ボクシングの面白さを実感したのは拓殖大学1年生のときだ。ボクシングの

名門校だけあって、部員はみな全国トップレベル。内山選手は、補欠にも選ばれず、同級生の荷物運びをさせられるという屈辱を味わった。レギュラーになりたいう一心で練習に明け暮れ、部員たちが羽を伸ばす夏休みには特に力を入れた。

「『みんな頼むから遊んでいてくれ。追い抜いてやるぞ』という感じでしたね(笑)」

そして、この年の11月、全日本選手権大会で埼玉県代表として出場した内山選手は、たまたま同じ大学で「部内一の天才」といわれた2年上の先輩と戦うことになった。誰もが内山選手が負けると決めていた。結果は内山選手の判定勝ち。

「人よりも努力すれば勝てる」

内山選手はそう実感し、ボクシングに惹かれていった。今も努力を欠かさない。「運動でも勉強でも目標に向かって努力すると思う。そのときに立っているのは、『今週中に0.1秒速く走れるようになる』といったような小さな目標がいい。手の届く目標をクリアした先に次の目標が見えてくる。それをまたクリアする。それによって力がついていくと思います」



内山高志さん

大学卒業後は就職し、アマチュアでボクシングを続けるも、やはりプロになりたいとワタナベボクシングジムに入り、2005年プロデビュー。実家のある春日部が大好きで、今も1、2週間に一度は必ず戻ってくる。実家で飼う猫と遊んでいると、リラックスできるそう。



この情報誌には、写真が動くAR動画を掲載しています。

シティセールスシンボルマークのアイコンのある写真でAR(エーアール)動画を楽しめます。スマートフォンやカメラ付きタブレットでAR動画を再生するには、無料アプリ「Aurasma」(オーラズマ)をインストールしてください。詳しくは市公式HPへ。